

## 成果と課題

### (1) 体験学習の重視

生活科の学習は、机上の学習ではなく、まず「やってみる」という体験学習が重要な教科である。そういう体験を楽しむこと自体が重要であり、本来児童がもっている関心や意欲を大切に育てていくことにな



る。たとえば下記のようなドングリロケットもまず作ってみてやってみて穴の大小に考えが及んでいく。そして調節。更に遊んでみて年長さん用に再調節していく、という具合である。楽しくなくては始まらない。

### (2) 体験学習の中からの気付き

生活科の学習対象は、自分の学校や通学路、地域のお店などの施設や自然、そしてそこに住む人々との関わり、家族やその一員である自分である。自分の周りに目を向け、確かめたり再発見したりする中で、



郷土愛や自然愛が芽生え、やがて日本、世

界へと目が向けられていく。

そこで、生活科の学習では、まず各自自分の家の周りの「ひみつ」を紹介し合う。そこへ出かけて行って遊んだり、そこで出会った人と仲良くなったりして楽しむ。自分の周りに限られていた視野が、いろいろな方面へ行くことで朝日町全体に広がり、そういう営みの中で、自分の郷土のすばらしさに気付き、やがて郷土愛に通じ、郷土を大切にする気持ちも育てられていくと考える。



しかし、体験は楽しくたくさんやらせたいが、やりっ放しでは学習としては成り立たない。感じたことを「ことば」に置き換えて仲間に伝えてこそ、具現化され、本人にも仲間にも意識化されるのではないかと思う。「ことばで伝えていく」ことは思考を深めていく重要な過程である。

下記はあさがおの観察での児童の感想の移り変わりである。

5 / 19 こんなスイカみたいな種は見ることがない。

6 / 6 水と太陽だけで芽が出てきてすごい。

6 / 14 あさがおの種は不思議だなあと思った。(双葉の)真ん中から葉っぱが出てくるなんて思いませんでした。

こういう気付きの交流が、やがて、社会科での仲間との練り合いに発展していくのだろうと考える。